



エスキモーの芸術は、シャーマニズム

内について詳しい。彼らは力強い動物や人間の姿を、自分たちが完全に理解しているリズムで表現し、カリブーの追い方や子供の抱き方を描いて見せる。エスキモーには、毛皮や羽根の模様、骨格、筋肉の筋、北極グマのゆったりした歩き振り、セイウチの重量、あざらしのすべすべした体、鴨が飛んでいるときのリズム、石わなに捕えられた魚の落ち着かない動きなども、全部わかっている。生活の源だからだ。

彼らは、版画を通じて伝説や昔の神話上のできごと、あるいは想い出深い旅について私たちに語り、また、はるか昔の物の見方や創り方を教えてくれる。エスキモーの芸術品や工芸品、歌や伝説には、何千年にもわたって力強い思想が流れていた。これら漂流の民がアジアからアメリカ北極にもたらし、そこで子孫へ長く残せたのは、こうした観念や思想だけだった。

石彫と同じく、版画は今日のカナダ・エスキモーにとって大事なものとなっている。めまぐるしく変化するエスキモー

社会にあつて、生活の糧を得る手段になつてはいるだけではない。すべての人々が理解する言葉で語りかけてくれる版画は、生や死に対するエスキモーの考え方を示してくれるからである。

にその根源を求めることができる。一世代前まで、これらの人々は、今でも私たちに

とってほとんど不可解な、途方もない霊的世界との日常的な関り合いによって支配されていた。かつて衣服につけてあつた小さい粗削りの護符は、あらかたなくなつた。動物や人間をかたどつた護符は、狩人とその獲物の間に一種の共感的魔力を生じさせる役割をもつていた。今日、大半の版画は、ちょうどこのような護符と同じように、古代アジアのシャーマニズムから直接そのモチーフを得ている。私たちが見る版画の絵は、こうした古い伝統を表現したものにほかならない。

エスキモー芸術の素材でのびのびしたところは、人間の表現としては最も素朴な部類に入る。エスキモーが創造する像は多くの場合小さいが、ときおり記念碑のように見える何かがある。エスキモーの版画や彫刻は、大人、子供、芸術家、批評家、誰にでもすぐに理解され、受け入れられる。彼らの芸術には、時と空間の大きな谷間を超越し、世界の言葉で話しかける能力がある。

日本の版画技術、そして日本人の限らない親切が、エスキモーの版画を成功させる上で果たした役割は大きい。日本人とエスキモーの両方を知っている私には、どうも、昔々、両民族は北方アジアでつながっていたのではないかという思いに駆られる。エスキモーの歌さえも、俳句に表現される日本人の繊細な感情を想起させる。例えば、エスキモーはこう歌う――。

海水の上を私は歩いた



海の歌を、そして
できたばかりの氷の大きなため息を
私は聞いたようだ
行け行け、力強い魂よ
祭りの場所に健康をもたらせ

もちろん東京は、二十年間に大きく変わった。二十年前は高い建物はなかった。自転車はどこでも見られ、トラック代わりに荷物をのせて走っているのも多かった。自動車は少なく、ほとんどがアメリカ製の大型車だった。あのような車はも

うない。

今度訪日する前、私は自転車と同じように着物もほとんど姿を消した、と聞いていた。しかし、それは間違っていた。民芸館、根津美術館、京都の神社、能楽堂などで、私は着物をきている人を千人ぐらい見た。それは私が予想していた通りだった。日本は歴史と文化を重んじる国だし、国民は優秀だから、その豊かな文化遺産が消え去るのを座視することは、と私は考えるからである。

(写真は「エスキモー版画展」より)